

# 弔辞

日商岩井株式会社元相談役 社友会最高顧問故永井幸太郎殿  
のご葬儀にあたり謹んで哀悼の誠を捧げお別れの言葉を申し上げます。

一月二十五日夜深い悲しみを以てあなたの訃報に接しました。奥様はじめご親族皆様のご愁傷いかにばかりかとお察し申し上げますと共に私共にとつてのかけがえのない大きな支えを失った思いでただただ痛惜の念で一杯であります。

九十五才のご高令ではありましたが、日頃至ってお元氣の様子で毎週出社され、クラブ関西、大阪クラブの会合にもかかさずお顔を出され本年一月六日のクラブ関西新年の会にもお元氣でご出席されたとお聞きしましてこれからも長寿を保たれご指導願えると思っておりますのに誠に残念でなりません。

あなたは明治二十年四月四日兵庫県に生を享けられ明治四十二年神戸高等商業学校をご卒業、貿易人として身を立てんと神戸の鈴木商店にご入社、経営の近代化、貿易取引の拡大業績の向上に大きな功を収められ大正十二年取締役就任され我国貿易の振興を通じ世界経済、貿易の発展に多大の貢献されたのであります。

あなたの該博な識見と廉潔温厚なお人柄は皆から崇敬され、若くして社内外に重きをなしたのであります。昭和初期の世界的金融恐慌に際し不幸にして鈴木商店は優秀なる生産企業と人材を残して解散するに至りました。

あなたは直ちに同僚故高畑誠一氏とともに新会社設立のため日夜奔走され昭和三年二月八日日商株式会社を設立して代表取締役となり鈴木商店の若手社員三十九名を率いて極めて困難な環境下陣頭指揮に寧日なき奮闘を続けられました。爾来五十五年の歳月を経て今ここに感慨無量を感じるものであります。

会社の業績は逐年拡大向上し昭和二十年二月取締役社長に就任され名実ともに日商株式会社の高主脳として会社発展に弛まざる努力を尽くされ日商岩井今日の大をなす礎を築かれた。

昭和二十九年十一月後進に道を開く目的をもって故落合豊一氏に社長を譲り取締役として経営に尽画、昭和三十四年十一月相談役に退かれましたが昭和四十三年十月合併による日商岩井株式会社発足後も引続き相談役として経営指導に尽力されました。

一方あなたは大正十一年四月豊年製油の取締役に就任され、その後太陽鋳工の前身たる太陽産業、日新火災海上保険、増成動力、日本糖商、富山紡績、日本貿易信用の夫々取締役日本発条、中央毛織の社長等の要職につかれ産業界に大きな足跡を残されました。

その間あなたは昭和二十二年二月より約二十九年政府より請われて第三代貿易庁長官に就任され我が国が敗戦後の混乱期から復興に向けその難問山積の過渡期に貿易立国の理念をすぐれた国際感覚と豊富なご経験を生かされその重責を果たされました。

又通産省輸出入取引審議会、大蔵省外貨審議会等の委員、大阪商工会議所議員、大阪貿易協会顧問、関西経済連合会常任理事、日本貿易会副会長、財団法人国際見本市協会理事等我国産業界貿易会の先導として、又長老の一人として多くの要職につかれ幅広く尽力されました。

これら多くのご功績により昭和三十三年五月大阪府産業功労章、三十四年十一月に藍綬褒章、三十九年十一月には勲三等旭日中綬章を受賞される栄に浴されました。

更に又あなたは貿易人産業人として業界、国家のため尽力するかたわら青少年の教育に対して非常なる情熱を傾けられ日本学術振興会の評議員として私学の興隆に尽されたほか、神戸大学学術会理事長として後進の育成に並々ならぬ精力を傾注され

ました。

また甲南大学の理事長にも就任され大学教育行政にも参画し私学振興を通じて有為なる青年の育成に努められました。

他方国際文化の交流親善にも意をくだき大阪国際フェスティバル協会理事、大阪日仏協会常任理事、神戸日仏協会理事、大阪日独協会評議員等各種友好団体の役員をつとめられその発展に寄与され、就中大阪日米協会会長、大阪サンフランシスコ都市提携委員会会長として国際友好親善に大きな貢献をされました。

あなたは昭和四十七年五月日商岩井の相談役を退かれてからは日商岩井社友会最高顧問として一千名におよぶ社友の頂点にありましたが常に私共日商岩井役員一同の大先輩、最長老として敬慕されておられました。

永井さんは藤の花になぞらえられ崇高な経営哲学の持主でありました。も早や永井さんの滋味溢れるお人柄、慈父の如き温容に接することは出来なくなりました。今ここに遺影の前にして在りし日のあなたを偲びただただ安らかに眠り下さいと申し上げるのみであります。

私共一同あなたからの薫陶を大切にしながらのご遺志をしっかりと受け継ぎ一同意志強固に且つ心を一にして社業の発展と社会への貢献に全力を傾注しあなたの御霊を安んじ申し上げたいと念じております。

永井さんどうぞ天に在ってご遺族に対しご守護下さらん事をお願い申し上げます。我社の社運の発展をお見守り下さい。本日ここに社葬をもって御霊を送るに当りあなたの生前のご遺徳とご功績を讃え衷心より深甚の感謝と哀悼の意を捧げ弔辞といたします。

昭和五十八年二月七日

葬儀委員長 日商岩井株式会社

取締役社長 植田 三男

## 永井幸太郎翁の遺稿の数々

「わが父を語る」永井幸太郎

遺詠 昭和五十五年 秋

青い空白い雲ある秋の野を行く静けさを独り楽しむ

「蜘蛛句集」から

今とりし鯉のつくりや父と酌む

寝られねば又起きて聞く虫の声

早乙女やおなじ模様姉かぶり

野焼跡踏みどころなき新芽かな

御佛や奈良は鐘の音青葉雨

折り取りしつゝ、じ流して従いぬ

駱駝隊の鈴の達者や月の窓

蚊が出れば扇いでくれし母なりき

親しげや窓のぞきこむ寒雀

青風や干す友禅の加茂川原

拝啓、春寒料峭の候、御尊堂様には益々御清祥の御事と拝察しお慶び申し上げます。

先日、父死亡に際しましては、お寒い中を御丁寧な御弔問を賜わり、其の上御慈愛溢れた御辞を頂き遺族一同感激致しました。早速表装させて戴き、仏前に供え、冥福を祈らせていたゞきたいと存じてをります。亡父も、草場のかげで大層感激することと存じます。誠に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

寒さ猶厳しい折柄御自愛をお祈り申し上げます。先は右取急ぎ書中を以って、御礼申し上げます。

二月二十一日

敬具

永井弥太郎・拝

柳田義一様 机下

